

手引のためのガイドブック

# 神のご計画

—世界の創造から完成まで—

私は神のご計画のすべてを、  
余すところなくあなたがたに知らせたからです。

使徒 20:27



# 目次

ガイドブックの使い方	1
1課 創造 (創世記1-2章)	2
2課 人の背 <sup>そむ</sup> き (創世記3章)	6
3課 ノアの箱舟 (創世記6-9章)	7
4課 アブラハムへの三つの約束 (創世記12:1-3)	8
5課 エジプト脱出と律法 (創世記-申命記)	10
6課 荒野から王制へ (民数記-列王記)	14
7課 イスラエルの失敗と懲らしめ	18
8課 メシアによる回復の希望	22
9課 捕囚 <sup>ほしゅう</sup> 後 (エズラ、ネヘミヤ、マカバイ記)	26
10課 メシアなるイエス	28
11課 二分されたユダヤ人と十字架刑	32
12課 つまづきの十字架、復活、大宣教命令	34
13課 聖霊によって悟る弟子たち	36
14課 十字架の意味	40
15課 聖霊により、弟子を通して広がる神の国	44
16課 神の国 (良い世界) を広げるキリスト者	46
17課 万 <sup>ばんぶつ</sup> 物の刷新 <sup>さっしん</sup>	48
18課 おわりに	50
年表	52

# ガイドブックの使い方

本書は、創世記から黙示録までの聖書全体の流れを概観がいかんしたものです。手引「救いの基礎」と基本的に同じ内容であり、他の手引の土台ともなっていますので、手引のガイドブックとして使うことができます。

## ● 使い方

本書は、個人が全体を通読するものとして作られています。しかし、読書会での話し合いのために、ディスカッションの課題を一例として各課の終わりに記しています。

## ● カギ括弧と年表

カギ括弧には引用だけでなく、要約も含まれます。また、全体の流れを示す簡単な年表が巻末にありますので、適時ご参照ください。

## ● コラム

まとまった説明がされている用語です。

テーマ	頁
人間と死について	9
旧約聖書続編とマカバイ記	21
ユダヤ戦争	39
神のかたちの回復	39
教会と神の国	42
中間状態	43

本書は「聖書 新改訳2017」(以下、新改訳)に準拠じゆんきよしています。

[ ]は「聖書 聖書協会共同訳」(以下、共同訳)の表記で、新改訳と大きく違う場合に記しています。

# 1 課 創 造

(創世記 1-2 章)

## A 造り主である神と非常に良い世界

---

神は、天地万物を無から創造されました。その創造のみ業<sup>わざ</sup>には、順序がありました。先ず大地を造り、それを整えた後に植物を、植物の後に動物を、そして最後に人間を造り、世界を治めさせました(1:26-28)。神は、人間が世界を治めることに向けて、ふさわしい順序で世界を造られたのです。

そして、神は、人と動物のために食物を備えてくださいました(1:29-30)。神は、子どもを養<sup>い</sup>慈<sup>い</sup>しむ親のような方です。この神の愛は、聖書全体を貫<sup>つらぬ</sup>く最も大切なメッセージです。

神はまた、様々なものを造るたびに「良しと見られ」ました。「ご自分が造ったすべてのものを見られた」ときには「非常に良かった」〔極めて良かった〕(1:31)と仰せられました。神が造られた世界は、秩序があり、美しく、全体として調和<sup>ちやうわ</sup>がとれた、「非常に良」い世界だったのです。

## B 神のかたち(像)として造られた人

---

非常に良い世界の中で、人だけが、「神のかたち(像)」として造られたとあります(1:26-27)。「神のかたち」には三つの面があります。

### (1) 神に似せて造られた

第一の面は、「われわれの似姿<sup>にすがた</sup>に造ろう」(創1:26)とあるように、人が神に似せて造られたことです。では、神はどのような方なのでしょう。創世記1章にある、神を主語とする動詞や、神が造られたものを見ると、神のご性質を想像することができます。

「創造された」(1:1)から、神は創造性豊かな方であることが推測<sup>すいそく</sup>できます。順次、「仰せられた」(1:3)から、言葉や意思をもっていること、「良しと見られた」(1:4)から、良し悪しを判断する基準があること、「分けられた」(1:4)から、知性があること、「草と……木を……与える。

……それは食物となる」(1:29)から、愛に満ちた方であること、「すべてのもの……非常に良かった」(1:31)という箇所、ならびに、自然界の美しさから、感性和芸術性に富んでおられる方であることが想像できます。

私たちは、その神に似せて造られたので、知性や芸術性、愛情や良心があります。また、神は、創造性豊かな方なので、私たちも歴史を通じて、クリエイティブに地上の営みを築いてきました。

エデンの園の農夫だったアダムとエバのことを想像してみましょう。アダムが最初に造った鋤と竪琴よりも、3年後のものの方がより機能的で、美しかったです。エバの織った布や描いた絵にも同じ発展があったことでしょう。神に似せて造られているので、人間はクリエイティブで、より良く、より美しいものを生み出していくのです。

アダムの子孫の職業は、時代とともに多様化していきます。ヤバルは羊飼いとなり(創4:20)、ユバルは音楽家(4:21)、トバル・カインは鍛冶屋(4:22)、ニムロデは狩人(10:8, 9)になりました。その後、政治と経済、科学、建築、農業、芸術など、あらゆる分野において、人間の文明は絶えざる発展を遂げてきます。それは、神に似たものとして地を治めてきた結果であり、神の創造の業の継続とも言えます。

罪の故に、その発展が破壊的な方向で使われてきたことも事実です。例えば、ダイナマイトが兵器として使われるようになったこと、政治機構による人種差別政策の強化、東アジア儒教圏などに見られる「家」制度による女性への抑圧などです。しかし、だからといって、人間が神のかたちでなくなったのではありません。それは、罪の故の歪みです。文明の破壊的な面だけを見て、神のかたちとして人が築いてきた営み全てを否定することはできません。

ですから、「罪からの救い」と言ったとき、それは、地上の営みを否定したり、そこから逃げたりすることではありません。また、「創造本来のあり方の回復」と言ったとき、それは、エデンの園のような牧歌的な生活への回帰を意味しません。イエスを主と信じた私たちに求められていることは、それぞれの生活の現場で、与えられた資質や能力を正しい

方向で用いていくことです。創造性豊かに、より良いものを、より美しいものを生み出し、愛と正義に生きていくことです。キリスト者は、人間が神に似せて造られていることを知ったのですから、生活のあらゆる分野で、喜んでそのような歩みをしていきたいと思えます。

## (2) 他者のために

神のかたちの第二の面は、私たちが、人格的な<sup>おとう</sup>応答をする、愛の関係に生きるように造られているということです。

三位一体の神において、父は子と聖霊のために、子は父と聖霊のために、聖霊は父と子のために存在しておられると言えるでしょう。私たちは、その神に似せて造られています。ですから、神の愛を受けとめ、神を愛して生きる、人の愛を受けとめ、人を愛して生きるように造られています。そのように愛をもって応答して生きることが、人の本来の姿です。完全な人間であるイエスはそのように生きました。イエスのうちに、真の人間性を見ることが出来ます。人間社会は、互いが他者のために生きるという<sup>きほん</sup>基盤の上に成り立っているのです。

エデンの園でのアダムとエバの新婚生活は幸せだったでしょう。アダムはエバのために生き、エバはアダムのために生きていました。二人は神を愛し、委ねられた農園を心を込めて耕し守っていました。彼らは、神のかたちの本来の姿に従って生きていたので、幸せだったのです。

## (3) 地上の王

神のかたちの第三の面は、地上で果たすべき使命です。この理解の鍵となるのは、「神のかたち(像)」（創1:27）という言葉の本来の意味です。

古代中近東の王は、自らのことを「神のかたち」と<sup>しょう</sup>称しました。それは、「自分は、目に見えない神の、目に見える<sup>かたち</sup>像である、神の代理人としてこの王国を治めている」という主張でした。

驚くべきことに、聖書では、この王を指す言葉が人類全てを指して使われました。つまり、「私たち人間は、目に見えない天の神の、目に見える地上での代理人、神に代わって世界を治める王として地上に造られた」

ということになります。そのため、神は次の28節で「地を従えよ」と命じています。そして、神は、アダムに、園を耕し守るように言われました(2:15)。「耕し守る」は「開発と保護」を指すという意見があります。開発と保護は、農業だけでなく、自然界に働きかける人間の全ての<sup>いとな</sup>みを指しているとも言えます。エデン農園は地球全体から見たら小さな一歩ですが、人は次第に増え広がり、職業も多様化しながら、地上全体を治めるようになる。それが神のご計画でした。

人間には地球全体の管理が委ねられています。私たちの使命は、正義と愛に満ちた神の代理人として、神を目に見える「かたち」で表し、世界を正義と愛によって治めることにあります。そのために、人は神のかたちとして造られたのでした。

#### (4)「神のかたちとして造られた人」のまとめ

私たち人間は、神に似た資質や能力が与えられているので、喜んでそれを磨きます。心を込めて、考えながら、芸術的に、創造的に生きようとしします。

しかもそれは、他者のためです。神を愛し、人を愛し、私たちを取り巻く被造世界を愛するので、与えられた資質や能力を喜んで使います。

しかし、それで終わってはいません。そのような日々の歩みの中で目指しているのは、神に任じられた王、愛と正義に満ちた神の代理人として、地球全体を大切に治めていくことです。

もし、アダムとエバが神に背を向けず、その子孫も神を愛し続けたならば、世界はこのような人間共同体で覆われ、賛美と平和と豊かさで満ちていたことでしょう。神は人と世界を愛し、そのような幸いなあり方を望まれました。これが、神が天地万物を造られた目的だったのでした。

#### ● ディスカッション ● .....

天地が造られた時に、神が望まれた世界をどのように思いますか。今日の仕事や家事、また勉強が、世界を治めることだとすると、私たちは、日々の生活をどのように見直さなければなりません。

.....